

高石神社 川崎市麻生区高石 1-31-1

高台に鎮座する同神社は、地頭加々美金右衛門正吉が神体を奉納して承応 3 年（1654）に創建し「天照大神」などを祭神としている。大正 11 年高石村内の熊野社、御嶽社、春日社、富士浅間社、八幡社等を合祀した。（新編武蔵風土記稿より）

厄払いの「厄焼落とし」という神事で知られている。かの源義経が奥州へ向かうとき、道中の災いを落とすために厄を焼き払う神事を行ったといい、1984（昭和 59）年の大改修に際して復活。以後、地域の大切な祭りとなった。境内には「三匹の石蛙」が置かれている。腹の部分に「若」「銭」「福」の文字が刻まれており、“よろず不老の若「がえる」”“商売繁盛で銭「かえる」”“わざわい転じて福「かえる」”の意味があるという。



境内には多数の句碑が並んでいる



本殿



境内の「茅の輪」



遠くから目立つ日章旗



阿の狛犬は水噴き狛犬



三匹の蛙